

私たちは1976年、昭和51年にK B Sを卒業した、K 7期生です。

私たちは卒業後20年目の平成6年12月に、第1回同期会を開催しました。翌年、順送りでK B S同窓会の会長を引き受けることになっており、代表として、野々垣顕彦を送り込むための「決起集会」でした。九段のホテル・グランド・パレスに36人が集まりました。

平成7年の同窓会事業として、我々は、創設30年を迎えていたK B Sの「卒業生意識調査」を行い、結果をK B S当局へ提出し、全卒業生へも発表しました。その年度の同窓会総会では、その報告書に基づいて「K B S教育－我々の評価と提言」と題するパネルディスカッションを行いました。当時の矢作委員長ほかの教授陣、K、M各期の卒業生代表、現役生、OBである会社経営者に参加していただいたディスカッションは熱を帯びたものとなりました。責任年次にこのような事業を行ったことを我々K 7期生は誇りに思っています。

K 7期は1975年、昭和50年に、81人が入学して始まりましたが、16人が鬼籍に入り、現在は65人となっています。同期会はコロナ禍により中断したここ3年以外は1年も欠かさずに開催し、27回を数えることとなりました。その同期会を、私たちは本年、令和5年、2023年11月25日(土)に開いた同期会をもって幕を引くこととしました。その理由は次の通りです。

- ① K 7同期会は卒業以来、47年に渡って交友の実を上げてきた。同期会の役割は十分果たしたと考えられる。
- ② 今回の同期会も、出席者の30人以外に「体が許せば出席するのだが」というメンバーが10人ほどおり、最年長84才、平均77才、最年少71才と、高齢化が進んでいる。もう少し続けられそうにも思われるが、名残り惜しいくらいの時期での幕引きが適当と思われる。

今回は新宿の京王プラザホテルで開催しました。出席者は札幌、仙台、富山県高岡、岐阜などの遠方からも駆けつけ、夫人同伴も2組あり彩を添えてくれました。会合は、幹事団が制作した「写真で綴るK B S－K 7の記録」を巡る話題、全員参加のゼミ別スピーチで盛り上がり、最後に「若き血」を熱唱して幕を閉じました。

K B S卒業後、我々は家庭を築き、仕事に励み、会社を経営して、それぞれ激動の時代を過ごしてきました。その中で同期生集団はいつも、互いに励まし合う、気の措けない共通の「オアシス」でした。仲間には、三菱東京U F J銀行の頭取になってしまった、とんでもない「出世頭」(永易さん)もおり、互いに尊敬し合う関係でもあります。今後は、ゼミ単位の集まりなど、自由な形での活動に任せたいと思っています。連絡体制としてその名も「オアシス」と称するフェイスブック・グループを開設しました。

当日の集合写真をご紹介します。

